

《各学年の特徴》

- 1年 すすんで造形活動に取り組み、表現活動を楽しんでいる児童が多い。
- 2年 すすんで造形活動に取り組み、発想力豊かに表現できる児童が多い。用具を適切に扱うことに個人差がある。
- 3年 積極的に造形活動に取り組み、表現できる児童が多い。用具の適切な扱いや、見通しをもって取り組むのが難しい児童もいる。
- 4年 積極的に造形活動に取り組み、表現できる児童が多い。自分のイメージ通りに、表現するのが難しい児童もいる。
- 5年 主体的に造形活動に取り組み、表現できる児童が多い。最後まで粘り強く取り組み、深めていくことが難しい児童もいる。
- 6年 主体的に造形活動に取り組み、考えながら制作している児童が多い。既習事項を生かして取り組んでいる児童もいる。

育てたい力（課題）

- 1年 用具を適切に扱い、豊かな発想で表現する力
- 2年 めあてに沿って、用具を適切に扱い、豊かな発想で表現する力
- 3年 用具を適切に扱い、様々な材料に触れ、見通しをもって最後まで活動に取り組む力
- 4年 表したいイメージから、材料や用具を自ら選択し、適切に使い表現する力
- 5年 既習事項を生かして、自分の表したいイメージを基に、粘り強く表現する力
- 6年 既習事項を生かして、自分の表したいイメージを基に、表現する力

☆授業改善の具体策☆

- ・担任との連携 ・学校行事との関連化 ・安全指導の徹底
- ・題材のめあてを明確にする ・題材、材料の工夫 ・伝えたいことを表す活動
- ・友達の作品を鑑賞し合う場の設定 ・ICT機器の活用

《知識及び技能》

- 低学年 用具を適切に扱えるように、ICT機器を活用して、用具の使い方や制作の手順を提示する。
- 中学年 用具の安全な扱い方や、造形的な視点を理解しやすくするために、ICT機器を活用して資料を提示する。
- 高学年 既習事項を振り返れるように、ICT機器を活用する。また、前学年までの材料、用具を生かせる題材を設定する。

《思考力・判断力・表現力等》

- 低学年 五感を使って材料に親しむ活動を行う。また、表現の幅が広がるように、児童の発想を認める言葉かけをしたり、見本を提示したりする。
- 中学年 表現の幅が広がるように、ICT機器や資料を活用し、見本を提示する。また、様々な材料に触れられるようにする。
- 高学年 自分の表現について考えを深められるように、児童が自分の興味や願い、経験などをワークシートに整理する時間を設定する。

《学びに向かう力》

- 低学年 自分の作品をより良いものにしようとする態度を養うために、友達と関わり合いながら創作活動を行う時間を設定する。
- 中学年 見通しをもって取り組めるように、題材の大まかな計画を提示する。友達の作品の良さを感じられるように、制作の途中で交流の場面を設定する。
- 高学年 主体的に取り組めるように、既習事項を生かせる題材を設定する。友達の作品の良さを感じられるように、制作の途中で交流の場面を設定する。